

町政を問う

おく だ とし お
奥田 俊夫 議員 (8P)

- ◆ 広報等の配布や共同募金等の依頼

たに だ
谷田 みさお 議員 (9P)

- ◆ 新型コロナウイルス感染予防対策
- ◆ ゴミ収集場所の監視カメラ
- ◆ 町内の交通手段確保

わき もと たか のり
脇本 尚憲 議員 (10P)

- ◆ ヤングケアラーの実態と対策
- ◆ Uターン移住者への定住促進支援策

おか だ ひさ お
岡田 久雄 議員 (11P)

- ◆ 人口減少対策としての商業施設誘致及び宅地開発
- ◆ 行政手続きのデジタル化及びマイナンバーカードの普及促進

なか ぼう あきら
中坊 陽 議員 (12P)

- ◆ 山城多賀駅前商業施設誘致の進捗状況
- ◆ 国道24号城陽井手木津川バイパスの完成

おく だ とし お
奥田 俊夫 議員



各戸配布物の集約を

花木企画財政課長
野崎住民福祉課長

対処方法を協議する

Q 高齢者の増加で、刊行物の配布や共同募金等の依頼が負担になっている。

A 「広報いで」などの各戸に配布される刊行物は、1回平均何種類あるか。

A 配布は月2回で、1回当たり5〜6種類。回覧物が4〜5種類ある。各区にお手数をかけている。

Q 行政側であらかじめ仕分けできないか。

A 区の事情に合わせて仕分けすることは困難だが、印刷業者も交えて協議したい。

Q 「チラシ」も、「広報いで」のページ数を増やして、1冊に集約できないか。

A 広報の原稿締め切り以降に確定する新しい情報を伝えるため、「お知らせ」を発行しているが、集約化を検討したい。

Q 町が把握する募金は年間何種類か。

A 日本赤十字社の「募金」、「緑の募金」、「赤い羽根募金」、及び「年末助け合い運動募金」の4種類。

Q 募金の使い道を説明したほうが、協力を得やすいのでは。周辺自治体での募金の取り組みは。

A 日本赤十字社と共同募金会は、趣旨と用途を説明するチラシを



共同募金会のチラシ

公園掃除は高齢者に負担

西岡建設
課長

一般的な管理は地元区でお願いしたい

Q 公園の掃除も、高齢者には大変な労力を費やす作業。町としての考えは。

A 公園は区の要望で整備してきたこともあ

り、掃除や草抜きなど一般的な維持管理は区お世話になってきた。掃除後のゴミ回収や、大きな樹木の伐採などは町で対応している。

全戸配布している。周辺自治体でも自治会に協力を依頼しているが、振り込みを利用するケースもある。赤十字社への募金はクレジットカードからの寄付も可能。



谷 田 だ
みさお 議員

第6派の感染状況と予防対策は

畑中保健
センター所長

小児接種についても
準備を進めている

Q 本町での第6派の感染状況の特徴は。

A 特に20歳代の感染が多く、家庭内での感染が増加していると思われる。

Q 本町で無症状者に対するPCR検査等のできる場所の設置の考えは。

A 山城北保健所管内に20箇所で検査をして

いる。京都府では事業者の登録受付は終了している。

Q 保育園、小・中学校、高齢者施設に検査キットを配布し、看護師や保健師の派遣などで検査の支援は可能か。

A 保育園、小・中学校は国から抗原検査キットが配布済み。症状が出たらすぐに受診するよう指導しており、

抗原検査キットを利用する機会はほとんどない。

高齢者施設はまん延防止等重点措置期間中は、毎週職員にPCR検査を実施。

ゴミ収集場所の監視カメラ設置の目的は

脇本総務課長
菱本産業課長

不法投棄に対する抑制効果

Q 町内のゴミ収集場所に監視カメラが設置されているところがある。目的は。

A 町内の特定の集積ステーションで不法投棄が頻発していることから、不法投棄の行為者、車両等を特定するため。

Q いつからどの場所に何箇所設置しているか。

A 令和2年10月に北区内に1箇所、南区2箇所、令和4年1月に南区に1箇所。

Q 5から11歳のワクチン接種の予定は。

A 3月下旬に保健センターにおいて集団接種を実施予定。接種券は送付済み。

Q 撮影方法、記録方法、どのように活用しているのか。

A 赤外線センサーによる静止画又は動画撮影。カメラ内部の記録媒体に記録し、問題が発生した場合のみ映像を確認する。

Q プライバシーの侵害、個人情報保護のためのガイドラインを設けているか。

A 府において策定された、ガイドラインに則して本町も管理・運用している。

町内の交通手段確保は

寺井高齢
福祉課長

社会福祉協議会において
協議・検討中

Q 「第3次井手町地域福祉計画・地域福祉活動計画」の素案で発表された新たな移動支援事業とは。

Q 移動手段の課題を本町としてどう解決させていくのか。

A 社会福祉協議会において、高齢者の方に対する新たな移動支援の内容や事業手法について、京都運輸支局へ相談・協議を行うとともに検討が始められていると聞いている。

A 単独で移動手段がない高齢者等に対する支援事業は、安定して継続できることが重要であり、社会福祉協議会における検討結果を聞き十分に協議した上で対応を検討する。



ゴミ収集場所の監視カメラ



脇もと たかのり
本 尚 憲 議員

ヤングケアラーの実態と対策は

平間いづみ 人権
交流センター所長

本町に実態はない

Q 本町におけるヤングケアラーの実態把握は。

とから、実態はないと考えている。

A 「要保護児童対策地域協議会」を設置し、虐待案件等について、情報収集し対応を協議している。

これまでの間、18歳未満の子どもたちが家族の世話や介護などを行っているといった相談や事案がなかったこ

Q 現在行っているヤングケアラーへの支援策は。

A 実態がないことから、今のところ支援は実施していない。

Q 今後必要と考える支援方法や課題は。

A 様々なケースがあるので、同一の支援ではなく、必要な支援にいち早く取り組むことが、重要な課題であると考えている。



潜在化しやすいためきめの細かい支援を

Uターン移住者への定住促進策は

藤岡地域創生
推進室長

利便性の向上と住宅適地の拡大

Q 人口減少対策として「Uターン移住者」への支援が注目され、それぞれの自治体で取組が始まっている。

527名減少し、転入と転出の差である社会動態は、334名減少している。

しかし、白坂工業団地等への企業進出に伴い、平成29年からの4年間では、社会動態が22名増加している。

A 平成23年から令和2年までの10年間の人口動態は、出生と死亡の差の自然動態は

空き家バンク制度において、29名の転入があり、これまで取り組んできた一定の効果

が表れてきていると考えている。

Q 「Uターン移住者」への定住促進策について本町の考えは。

A 本町の位置的な優位性を活かし、現在取り組んでいるJR奈良線高速化複線化二期事業や国道バイパス及びそのアクセス道路整備

により、交通の利便性を図るとともに、新たな住宅適地の拡大を行うことが最も効果的な施策であると考えている。

日常生活の利便性向上につながる商業施設の誘致を含め、現在進めている施策が、一日でも早く実現できるよう取り組んで行く。



Uターン移住者への有効な定住促進策を



岡 田 久 雄 議員

人口減少対策は

藤岡地域創生推進室長
菱本産業環境課長
西岡建設課長

井手町地域創生計画の策定と実施

Q 人口減少対策と今後の取組みは。

では至っていない。

本町を将来にわたって持続可能なまちとするため、利便性の向上、子育て環境の向上等必要施策を着実に実施し、実現することが重要と考える。

A 平成23年度に人口減少を食い止めるための検討委員会を設置、平成27年度には、井手町地域創生計画を策定、令和2年度には同計画を改定し、必要な施策を本計画に位置付け順次実施してきたが、人口減少を食い止めるま

Q 国道24号バイパス周辺での宅地開発についての構想は。

A 取得状況は、令和4年2月20日現在、

現在までの取得状況と取得率の目標値は、29.3%となっている。国は、デジタル社会を早期に実現する観点から、令和4年度末までに、カードが全住民

A 住宅開発は、マスタープランにおいて、その立地条件を最大限に活用した若者や子育て世帯が暮らしやすい住宅用地としての土地利用を検討する。

Q 多賀地区町営住宅の概要と進捗状況は。

A 入居戸数は、1階に2DK6戸、2階に3DK6戸の合計12戸を整備する計画。

進捗状況は、令和5年3月を工期とする建築工事及

多賀地区町営住宅予定地



多賀地区町営住宅予定地

Q 多賀駅前商業施設の進捗状況は。

A 進出に伴う地区計画の設定のため、各法手続きの事前調整を実施している。

に行き渡ることを目指しており、本町も国の目標を踏まえて普及促進を図って行く。

Q 国の導入した「新マイナポイント制度」の周知と取得に対する支援は。

A 制度の周知については窓口等でポスターの掲示やチラシの案内のほか、広報誌等に掲載したいと考えている。支援については、個人で設定が困難な方にはマイキードの設定やポイント予約等の支援を行っている。

より多くの高齢者の方に参加いただけるよう、講座内容の工夫や広報等の強化に取り組んで行く。

Q 本町では、パソコンやスマホを使って、行政手続のオンライン申請を行うことは可能か。

また、今後の見通しは。

A 窓口での受付のほかに、予約による休日対応や、一部郵送による請求も受け付けているが、オンラインでの申請には対応していない。

Q 情報格差を解消するための高齢者を対象としたスマホ教室開催についての本町の考えは。

A 平成28年度から、スマートフォン等の基本的な操作方法やSNSの使い方などの講座を1年に数回実施してい

今後、行政手続きのオンライン対応に向け、具体的に取り組んで行く。

野崎住民福祉課長
寺井高齢福祉課長
花木企画財政課長

全住民に行き渡ることが目標

マイナンバーカードの普及促進は



なか ぼう
中 坊 陽 議員

山城多賀駅前商業施設の進捗は

汐見町長

令和6年春ごろに工事が完了予定

Q 山城多賀駅前商業施設は、1日も早い開業が待たれる。

令和3年6月に株式会社さとうが優先協議者として決定し、その後土地利用承諾の同意交渉を経て、具体的な整備計画作成後、事業着手すると聞いているが、完成時期、開業時期は。

A 令和6年春ごろに建築工事を完了し、その後開業できるよう計画を進める予定と聞いている。

1日でも早く開業できるように、新年度予算に商業施設の南側出入り口となる町道2号線の拡幅や、上下水道の整備費用を計上している。

国道24号バイパスの進捗は

西岡建設課長

早期完成を要望している

Q 国道24号城陽井手木津川バイパスは、本町にとって新興住宅地の開発誘導を含めた人口減少対策の起爆剤になると期待している。

現在の進捗状況は。

計及び橋梁予備設計に取り組まれている。上井手区では、道路構造説明会のあと、用地幅を示す杭が打設された。

A 城陽市境から玉川まで、現在道路詳細設



フレッシュバザール店内イメージ

Q バイパス全線の完成時期は。新庁舎付近から国道307号への接続時期は。

A 新名神高速道路の効果で1日も早く享受できるよう、早期完成を要望しているが、国から明確な完成時期は示されていない。

Q バイパスにつながる町道整備の進捗状況は。

A 国道バイパスと市街地を結ぶアクセス道路として、6箇所を予定している。

多賀地区の町道12号線及び34号線で測量や調査を行っている。

井手地区では、来年度に国道バイパス周辺の玉川から木津川市境まで地籍調査に着手する。その後にアクセス道路について具体的に検討を進める。



早期完成が望まれる国道バイパス予定地

市町村議会 議員研修

人口減少などこれからの 課題に立ち向かうには

議員 岡田 久雄

1月13日・14日
に全国市町村国際文
化研修所で開かれた
「自治体財政の見方
と健全化判断比率を
中心に」の研修に
参加してきました。

総務省による各
地方自治体の令和元
年度の財政状況資料
集を教材に、財政健
全化法に基づき、自
治体財政指標の実質
収支比率・経常収支
比率・実質収支（赤
字）比率・公債負担
比率・財政力指数な
ど様々な比率の算出
方法や適性数値につ
いて学びました。グ

いま地方自治体
は、人口減少や高齢
化、公共施設の老朽
化など様々な問題、
課題を抱えており、
それにどう立ち向
かっていくのが問
われています。今回
の研修で学んだ議員
の役割について、い
ま一度見つめ直し今
後の議員活動の中で
活かして行きたいと
思います。

議員視察

井手やまぶき支援学校

地域と共に歩む学校を目指して

4年3月11日、井手
やまぶき支援学校に議
員8名で視察に行つて
きました。

木材をふんだんに
利用した校舎内は、自
然光を取り入れた、と
ても温かみのある空間
となっており、建物の
中には、特色ある特別
教室として、オーブン
空間で本に親しむこと
のできる図書ラウンジ
や、ボルダリンググル
ームなどがあり、屋上
には25mプールも完備さ
れていました。

この校舎では将来
的に、小学部・中学部・
高等部の約200名の
生徒が、自身の障がい
や発達段階に応じたプ
ログラムに沿って、自

立活動に向けた指導や
効果的な学習の積み上
げを行います。
障がいのある人と
学ば仕組み（インク

ループ教育システ
ム）を構築するといふ、
京都府における地域密
着型のモデル校として
も注目されています。



屋上プールを視察する議員団

編集後記

今まで5名で作成してき
た「議会だより」ですが、
次回第79号からは、議員全
員で作成していくことにな
りました。議会での内容を
少しでも早く住民の皆様
にお届けすると共に、これ
からも皆様に愛される議会
だよりになるよう、より一
層励んでまいります。

議会広報編集委員一同



井手町ホームページ
会議録集QRコード

いでたんが聞く



丸岡恵真校長

新米記者いでたんが町に出かけて、まちのこといろいろ聞いてみます。

令和4年4月に開校した井手やまぶき支援学校の
校長に就任されました

丸岡^{けいしん}恵真校長にお話を聞きました。



いでたん



校長の経歴を教えてください

教員になって30年以上が経ちました。途中、教育委員会に行かせていただいたこともあります。学校としては最初に務めさせていただいた中学校から数えると8校目の学校となります。

校長としては3校目で、縁あって井手やまぶき支援学校の校長に着かせていただきました。開校前から井手町の皆様に厚く応援していただいて誠にありがたいです。



井手やまぶき支援学校の教育理念にある「地域と共に歩む学校」とは具体的にどのような学校をめざしますか

これからの時代は先行き不透明な時代、中々困難なこともあろうと考えられています。そんな状況でも、子どもたちには幸せに豊かに生きてほしいですし、そんな良い社会を創ってほしいです。そのための基盤となる力を学校時代に養わなければと考えていて、そのために地域の皆様のお力をお借りしたいと思います。また、がんばって光り輝いている子どもたちの姿をお目にかけることによって地域の皆様にお返しをしていきたいと考えています。



丸岡校長にこっそり聞きました。

座右の銘は パンのみにて生きるにあらず
好きな食べ物は 何でも食べるのですが、かやくご飯ですかね。ゴボウが入っていると最高です。
休日の過ごし方 とにかく動いているかなあ。全く逆に完全に停止していることもあります。



井手やまぶき支援学校とはどのような子どもたちが通学しますか

綴喜郡の井手町、宇治田原町、京田辺市、そして木津川市の一部から、小学部～高等部までの子ども達が、スクールバスや電車を使って登校します。開校した年は140名ほどの予定です。障害があって困難なこともあります。光り輝いてがんばる子どもたちです。

いろいろな場面でご一緒してください。



やまぶきサポーター（YS）とはどのような活動を予定していますか

もう「予定」どころではなくて、すでにのべ60名ほどの保護者の方が学校の清掃や、草引き、あるいは学校の重点的な取組にしようと企画しています図書ラウンジ(図書館)の環境作りや蔵書の整備など、開校前からお手伝いしてくださっています。

こんな開校前からたくさんの方にサポートしていただく学校は全国探しても、そう多くないのではないかと大変感謝しています。開校後も引き続きサポートをお願いします。



スクールキャラクターのことを教えてください

スクールキャラクターは『やまぶー』です。たけのこ飯とお茶、読書が好きで、ダンスが得意です。子どもたちと一緒に遊び、見守り応援してくれる頼もしい存在です。いでたん&こらぼすることを楽しみにしているようです。是非、『やまぶー』に会いに来てください。

